

# 20世紀の巨匠たちⅠ



モーリス・ユトリロ「モナマルトル風景」 油彩 30F

## ◆巨匠を輩出した花の20世紀◆

前世紀後半から20世紀にかけ、新古典派、印象派、キュビズム、シュルレアリスムなどが新たに生まれ、花開きました。その中から巨匠たちの名品を選んで展示致します。

会場・主催 公益財団法人 河村美術館

住所／佐賀県唐津市北城内 6-5 (\*駐車場あり) 電話(FAX)／0955-73-2868

URL／<http://www.kawamura.or.jp/> Mail to／[kawamura2868@diary.ocn.ne.jp](mailto:kawamura2868@diary.ocn.ne.jp)

後援 唐津市・一般財団法人 唐津観光協会

公益財団法人 唐津市文化事業団

協賛 画廊裕貴

会期 4月23日(土)～6月12日(日)

10:00～17:00(入館～16:30) \*土日祝, 5/2, 5/6のみ閉館

料金／大人500(400)円 大・高生 400(300)円(20名以上団体料金) \*中学生以下無料

弊館は、公益財団法人に認可されて三年目を迎えました。初年度に横山大観・棟方志功、昨年度には藤田嗣治と、日本の巨匠を続けて取り上げて参りましたが、今年度の春季展は「20世紀前後の世界」に注目し、海外の巨匠たちの名品をご紹介します。

19世紀後半からヨーロッパで新たに生まれた美術の潮流は、新古典主義を最後に長く続いた絵画の伝統から脱皮し、実社会に根差したミレーやコローなどのバルビゾン派やクールベなどの写実主義を経て、印象派に至りました。

印象派は、戸外での作画やそれまでになかった光の表現など全く新しい美術を提唱しました。印象派以降ナビ派、世紀末美術、象徴主義、素朴派、エコール・ド・パリ（パリ派）などが生まれ、また一方でフォーヴィズム、シュルレアリスムなどのダイナミック、或いは超現実的な絵画が生まれて非具象絵画や思想的な絵画へとさらに変化していきました。

芸術の激動の時代だけに、なかなか全てを網羅できませんが、今回は「20世紀の巨匠」と題し、20世紀前後の美術の変化の時代の中から、巨匠と作品を取り上げます。主な画派と作家は以下の通りです（全ての作家を展示する訳ではありません。ご了承ください）。

- バルビゾン派…聖書や神話など宗教的、歴史的な従来の絵画とは異なり、自然主義的な風潮から野外での自然観察を重視し、それまで画題になり得なかったフランス国内の森や溪谷、田園などの自然風景を描いた。ミレー、コロー、ルソー、ドービニーなど。
- エコール・ド・パリ…「パリ派」とも称されるが、特に芸術理論を提唱することはなく、パリのモンマルトルなどで活躍した作家たちの集まりを指す。ユトリロ、キスリング、パスキン、フジタ、ローランサンなど。
- ポスト印象派…「印象派」に属すものの、「印象派」から離れた作家たちを指すが、所属は曖昧である。ルノワール、セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャンなど。
- シュルレアリスム…「超現実主義」と言われ、「ありえない現実」などを描く。ダリ、マグリット、ミロなど。
- 20世紀絵画…特に芸術理論や、特定の場所などなく、独自に活動した作家たちである。今回の展示（予定）では、ビュッフェ、カシニョールなど。頻繁に画風を変えたピカソなども総括すればこの範疇に当たるだろう。

なお、弊館では夭折の天才画家・青木繁を常設展示しております。地元佐賀の画家、愛らしいエマーユ、ピアマグの珍しいコレクションもございます。ご高覧をお待ち致します。